

ブラジルの政策金利引き下げについて

ポイント① 政策金利を12.25%に引き下げ

2月22日（現地時間）、ブラジル中央銀行は金融政策決定会合において、市場予想通り、政策金利を0.75%引き下げ、年率12.25%とすることを決定しました。0.75%の利下げは2会合連続となります。

ポイント② インフレ鈍化を受け利下げペース維持

同中銀は、インフレの鈍化を受けて、同国の経済活動を支援するために、利下げペースの維持を決定しました。

1月のインフレ率は5.4%と、5か月連続で低下しており、同中銀のインフレ目標の上限である6%を下回っています。同中銀は、食糧品価格の低下が再び始まるなど、デスインフレがさらに拡大しているとの認識を示しています。また、ブラジルレアルは、鉄鉱石など資源価格の堅調な推移などを背景に、対米ドルで足元で上昇基調となっています。

経済について同中銀は、短期的に安定しているが、前回会合以降に発表された経済指標は強弱入り混じるシグナルを示していると説明しています。一方で、2017年を通して経済活動は徐々に回復するとみえています。また、世界の経済見通しは不確実であるものの、活発な経済活動や資源価格へのポジティブな影響により、主要国の経済政策の変更がブラジル経済に与える負の影響を和らげていると説明しています。

同中銀は、財政など構造改革の承認と実行、デスインフレの持続性と構造的な金利低下に向けて同国経済が調整されることの重要性を強調しています。このような状況のもと、同中銀は、インフレ率が2017年、2018年に目標の4.5%に収敛していくことと、金融緩和プロセスの継続は両立できると判断し、今回の利下げを決定しました。

ポイント③ ブラジルレアルは上昇

2月22日のニューヨーク外国為替市場では、対米ドルで前日比1.0%程度、対円で同0.7%程度のブラジルレアル高となりました。

今後の金融政策について同中銀は、緩和サイクルの期間中はブラジル経済の構造的な金利の水準次第としています。また、多くの市場参加者は追加利下げを予想しています。

重要
イベント

3月7日 GDP(国内総生産、2016年10-12月期)

3月10日 拡大消費者物価指数(2月)

4月12日 金融政策発表

図1：政策金利の推移

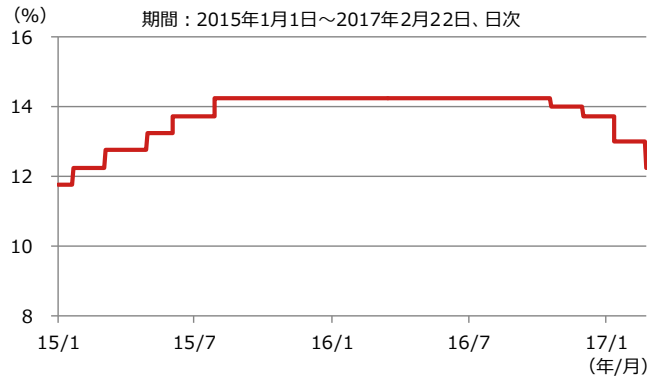


図2：拡大消費者物価指数（前年同月比）の推移

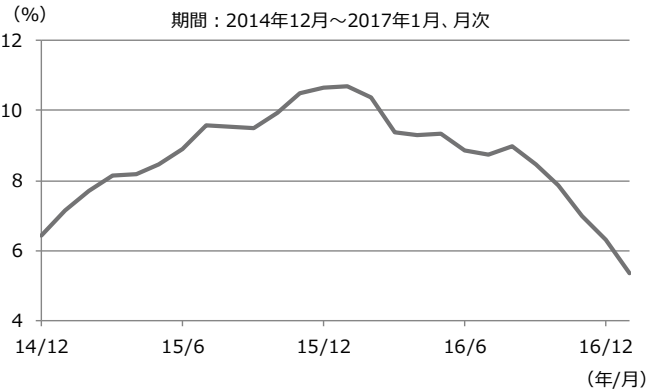


図3：為替レートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。